

DESK 通訳者養成プログラム

趣 旨

ここで通訳とは、観光等の随行通訳ではなく、会議通訳のことを考える。その意味での通訳とは、「単に言葉ができるだけの特殊技能者」などではなく、政治・経済・自然科学・芸術等各分野の専門家同志の間にコミュニケーションを成立させるための極めて専門性の高い知的能力を要する職業である。つまり通訳能力とは、単なる語学力を遙かに越える、異文化間コミュニケーション実現のための総合的テキスト能力のことである。

日独間の通訳者は現在も極めて限られており、質・量ともに緊急の改善を要する状態が続いている（もっともこれは、英語以外の外国語一般に関する事態である。）とりわけ、人文社会科学系統の議論がテーマとなる学術会議などで議論の媒介をなしうる通訳者の養成は、今後の日独学術・文化交流にとって緊急の課題となっている。さらに、通訳者教育を担当しうる人材の育成を行なう機関が未だ不在であり、その役割を担いうる機関が求められる。

内 容

本学では今年度から「特殊講義(日独通訳論)」として、通訳・翻訳の基礎を講義する科目が設置された。これは学生を通訳者に向けて専門教育しようという趣旨のものでなく、あくまで、学校語学としてのドイツ語教育に加えて、テーマや訳出パフォーマンスに関して社会への現実的接点を持たせるための基礎教育という位置づけのものであるが、こうした形で総合的テキスト能力を高めることは、招来の日独交流関係の一翼を担うべき学生たちにとっては必要かつ重要なことである位置づけられる。

本プロジェクトでは、この講義科目をさらに発展する形で **Tutorium** を作り、自由参加の本学学生、および外部から実際に通訳に携わりつつある養成中の参加者を一定の審査を経た上で募り、定期的に通訳養成教育を行なってゆく、という制度の立ち上げを目指している。両者のグループの間にはドイツ語運用能力上大きな格差があることが予想されるが、まさにそうした異質なグループ間の交流こそが、本学学生にとっても大きな刺激となることを目指しているし、他方で一般通訳者にとって学術的内容に触れてもらう機会ともなることが期待できるが、あくまで会議通訳や学術通訳・翻訳の専門教育を行なうものとする。なお、本プロジェクトでは、実際に活躍している外部のプロ通訳者からの援助・助言を期待している。

具体的活動形態

1. 学期中は、定期的に毎週決まった時間に駒場キャンパス内の決まった場所で、ワーキンググループの会合を開催し、外部から適切な指導者を招き、日々の訓練を行なう一

方で、通訳者養成上のノウハウや資料を蓄積していく。通訳基礎として、学術テキストの翻訳や要約・プレゼンテーションなどを行いながら、研修を行なう。さらに、各分野毎の専門用語等に関するノウハウの蓄積を目指す。

2. 年に一回、合宿制の集中講座(Blockseminar)を開催し、ゲスト・スピーカーやプロの通訳者を講師に招いて模擬会議等を含めた集中トレーニングを行なう。(本学学生および外部参加者については、参加者の実費負担。外部参加者については定員を定めて選択審査を行なう。)